

「教育臨床総合研究 9 2010研究」

平成21年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Approaches on “Basic Experience Area” in 2009

池山圭吾*	長澤郁夫*
Keigo IKEYAMA	Ikuo NAGASAWA
福間敏之*	青山巧*
Toshiyuki FUKUMA	Takumi AOYAMA
小川巖**	
Iwao OGAWA	

要旨

島根大学教育学部の教員養成カリキュラムである「1000時間体験学修」を実施してから6年が経過し、3月には1000時間体験学修を修了した3期目の卒業生を送り出すことができた。

ここでは、基礎体験領域における6年間の取り組みの経緯（改善点）と、平成21年度の基礎体験領域の取り組みの概要と成果について報告する。

〔キーワード〕 基礎体験領域，基礎体験セミナー，成果と課題

はじめに

「1000時間体験学修」は、1,000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程であり、「基礎体験」「学校教育体験」「臨床・カウンセリング体験」の3つの体験領域から構成されている。

基礎体験領域は、小・中学校での学習支援、学童保育、地域イベント、社会教育などの教育活動や地域活動への参加を通じて、教師に必要な資質の土台となる社会性や豊かな人間性を養うものである。さらに、子ども、地域、学校と主体的に関わり、多様な体験にもとにした教育実践力を育むものである。基本的な流れは、各事業所が行う様々なプログラムの中から、興味・関心のあるものに参加し、活動を通して自分の課題に「気づく」、その課題の解決に向けた活動の方向性を「つかむ」、活動への取り組みを「深める」という段階を経て進めていくものである。さらに、活動を通して身につけさせたい資質・能力として6つの力（子ども理解、人間関係力、社会の一員としての自覚、企画力、指導力、学校理解）を設定しており、評価の具体的観点にもしている。各活動の事後指導や各基礎セミナーの振り返り際には、これらの観点をもとに自己評価をさせ、自己認識や課題意識の深化などの自己成長を促している。

*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

**島根大学教育学部附属教育支援センター長（心理・発達臨床講座）

I 基礎体験領域における取り組みの経緯

まず、1000時間体験学修がスタートした平成16年度から平成21年度までの、6年間の基礎体験領域における取り組みの経緯を下の表にまとめた。

表1 6年間の基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
事業所との連絡協議会	-	-	○	◎改善	◎	◎
実習 Semester 学外教育体験	-	-	○	○	○	○
ビビットひろば	-	○	○	○	○	○
事前・事後指導の実施	-	-	○	○	◎改善	◎
各学年の基礎セミナー実施	-	-	○	○	◎改善	◎
だんだん塾講演会(サポート・マイスター講演会)	-	-	○	○	◎改善	◎
基礎体験活動記録票	○	○	◎改善	◎	◎	◎
入門期セミナー I	△(試行)	○	◎改善	◎	◎	◎
基礎体験合同説明会	-	-	○	○	○	○
実習 Semester 説明会	-	-	○	○	○	○
社会教育施設との意見交換会	-	-	-	-	○	-
学内資格認定(3資格)	-	-	-	-	○	○
卒業生及び就職先への聞き取り調査					△(試行)	-
専任教員数	2名	4名※1	4名	4名	5名※2	4名

(注) ※1 1名は鳥取県から ※2 1名は特任教員

II 平成21年度の取り組み

《末尾に資料として「平成21年度基礎体験領域における年間活動実施一覧表」を掲載》

1. 基礎体験活動

(1) 基礎体験活動への参加実績

今年度も、延べ2,000名近い学生が、鳥根県・鳥取県内で体験学修を行った。受入団体も定着し幅広い分野から多様な体験活動が募集され、学生は自己基準をもとに活動を選択し取り組めるようになってきている。卒業要件とされる基礎体験470時間に対し、今年度卒業生の平均体験時間は714時間であり、学生自身が体験学修の有意義感を理解し積極的に体験を積み重ねている学生が多いことが明らかである。

《基礎体験活動への参加実績》

	H19実績	H20実績	H21実績
受入れ団体数	225	226	266
募集活動数	396	451	475
学生参加活動数	341	338	340
参加学生延べ数	2012	1898	1953

また、「松江市サタデースクール」や「出雲ウイークエンドスクール」等の基礎学力向上事業での支援活動にも積極的に取り組んでおり、現場の教師との連携の下に多くの学生が地域の子どもの教育実践に参加している。特に、松江市サタデースクールは2年、3年と継続して参加する学生も多く、子どもに対する言葉かけや立ち位置など実践を通して培い、自己の成長を実感できている。

《土曜日を利用した学力向上事業への参加実績》

	H19実績	H20実績	H21実績
出雲ウイークエンドスクール	25	32	40
松江市サタデースクール	95	105	88
合 計	120	137	128

しかし、最近の傾向として、コミュニケーションを取ることへの不安感や友人関係の希薄さ等が影響してか、はじめの一步を踏み出すことに強い抵抗感を感じている者が少なくない。宿泊を伴う活動への参加が消極的で、社会教育施設の活動へ参加する学生が減ってきているという課題が見えてきた。

(2) だんだん塾（事前・事中・事後指導）

体験活動を行う際には、必ず事前・事後指導を行っている。事前指導において、活動への参加理由を確認し、活動を通して何を学び、どんな力をつけたいかなどの目的を明確にさせている。また、事後指導では、活動の振り返りを通して自分の成長を確認したり、他の参加者と学びの共有化を図ったりすることにより、体験学修の有意義感を持たせるように努めている。これらの指導は4名の専任教員が地域割により分担して行っているが、今年度の総指導回数は1,395回で、4,540人の学生に対して行っており、専任1人平均では349回で1,135人の学生に対して行ったことになる。これらの指導はそれぞれの体験活動毎であり、学生の都合によっては個別に行うことも多い。指導に費やす時間は多大であるが、基礎体験活動の質の向上や意欲の継続には欠かせない活動である。

(3) だんだん塾（サポート・マイスター）講演会

昨年度は、教員採用試験を目指す4年生を対象とし、「今の教育現場ではどのような教師が求められているか」をテーマに、教師としての心がまえや最近の教育の諸問題等についての講演を行った。今年度は、「コミュニケーション・スキルアップ」をテーマとし、集団の中での人間関係を築くための手立てや、自分の考えや思いを相手に正しく伝えるための話し方や文章表現の仕方についての講演を行った。



全学年を対象として行ったが、これから就職活動や教員採用試験の向かおうとする学生にとって関心深い内容であり、3年生の積極的な参加が目立った。

回数	月日	講演者	講演テーマ
第1回	7月15日 (水)	劇団あしぶえ 小岩崎里瑠先生	人とのかかわり, ちょっとしたきづき ～ 集団の中での人間関係づくり ～
第2回	11月25日 (水)	山陰中央テレビ アナウンサー 河野 美知先生	伝える・伝わる話し方
第3回	1月27日 (水)	山陰中央新報 論説委員 高尾 雅裕先生	きちんと自己表現できる社会人になる ために!
第4回	2月7日 (水)	津山市立高倉小学校教諭 甲本 卓司先生 紙芝居屋「夢屋」代表 中村由利江先生	聞き手を引きつける話し方について考 える

(4) 専任教員による日常相談活動

学生からの要望で, 不定期ではあるが次のような日常相談活動を行った。

- 1) 基礎体験活動における個別相談
- 2) 生活面での個別相談
- 3) 教員採用試験に向けての願書添削や面接指導, 実技指導

2. 基礎体験セミナー

基礎体験セミナーは, 各学年の基礎体験活動を振り返っての自己分析や, 体験発表や情報交換を通して思いの共有化をねらいとして行っている。特に今年度は, 各学年の実態把握(活動意欲・体験時間・教職志向など)と分析を行い, 個々の学生のニーズに応じた内容を取り入れるなどの工夫改善を加えながら実施した。

(1) 入門期セミナーI (1年生対象)

日時	平成21年4月18日(土)～19日(日) 島根県立青少年の家 サン・レイク
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育体験活動「1000時間体験学修」の全体像を把握し, 4年間の大学生活の見通しを待たせるとともに, 教育学部生としての自覚を促す。 ・これから学生生活を共にする同級生やサポーターとして参加する先輩との交流を深め, 今後展開される教育体験活動における仲間意識を培う。



昨年度より学生参画のセミナーとして位置づけ, 学生企画の研修を実施してきた。今年度はさらに学生主体とし, これまで外部講師を招いて実施していた仲間づくりの研修(レクリエーション)や朝の集いを学生企画とし, セミナーの進行や新入生への指示などの運営の大部分も学生主体とした。総括スタッフを中心に36名の学生スタッフが2月の中旬より多大な時間と労力を費やしながらかセミナーの企画や準備を行い, 新入

生目線に立った有意義なセミナーを実施することが出来た。新入生の中には自分もこんな先輩になりたいと思った者も多く、学生スタッフは自分自身の変容や成長を強く感じていたようであった。学生参画の入門期セミナーは、新入生にとっても2・3年生にとっても学び多い貴重な体験の場となった。

(2) 1・2年生交流セミナー（1・2年生対象）

日 時	平成22年2月22日 12:45～16:45 大学ホール・教養講義室棟各教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体験で取り組んだ今年度の活動実績の確認をするとともに、それらの振り返りを通して自己内省を促す。 ・他学年の学生との体験活動の情報交換を通して、自分が体験していない活動で得られる学びの共有化をすると共に、今後の体験活動への意欲化を図る。

全体会では、体験活動の確認と自己分析を行った後、各学年の代表者による体験発表と、学内資格認定者からのメッセージを聞いた。学生は学年代表や資格認定者の発表に関心深く、体験での学びや課題などに深くうなずきながら目を輝かせて聞いていた。後半は、1・2年生合同の小グループで情報交換会を行った。異学年グループの貴重な情報交換の場であり、体験活動での多様な学びを学年を超えて共有し合い、実践意欲の向上につながった。しかし、グループ内で体験活動時間に差があることや、1グループ12名と多いことから話合いが深まらないグループもあり、班編成の持ち方への課題が残った。その後は活動相談会を実施し、部活動等により体験時間が少ない学生や有意な活動を模索している学生に対して活動紹介を行った。体験時間が少ない学生が41名、有意な活動を模索している学生5名の参加であったが、指導により活動登録を行った学生も10数名あり、一定の成果を得ることが出来た。また、説明会には学内資格認定者も参加し、経験をもとにしたアドバイスを積極的に行った。

(3) 充実期セミナー（2年生対象）

日 時	平成21年9月28日 13:00～15:00 教養講義室棟 各教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体験領域でねらう資質・能力の視点から、これまで取り組んできた活動のデータを分析し、他者と比較しながら各自の成果と課題を明らかにする。 ・体験時間別にグルーピングを行い、体験学修への意欲の違いや考え方について明らかにする。

2年生は、入学時より体験活動への取り掛かりがとても早い学年であった。その後も積極的に取り組んでおり、平均体験時間も他の学年を大きく上回っている。反面、2年前期終了時において基礎選択体験100時間未満の学生が21名おり、体験活動へのふたこぶ化傾向が起きてきている。昨年度は、学生代表による体験発表や活動内容の自己分析によりセミナーの目標は概ね達成出来たが、今年度の学生の実態では目標の達成は難しいと考えた。

そこで今年度は、選択体験時間数によるグルーピングを行い、等質のグループ化を行うことで、それぞれの課題に応じた深まりのある話し合いが出来るようにした。特に体験時間数が少ないグループに対しては、体験が出来ない理由を明確にした上で、体験活動の選び方、活動時間確保の仕方、専攻別体験への積極的な参加などの具体的な手立てを示し指導した。体験時間が多いグループは、事業企画を行った。企画経験のない学生もいたが、これまでの体験での学びを生かし積極的に話し合いに参加し活動を練り上げていた。経験豊富な学生にとって企画作りは、今後積極的に取り組みたい活動の一つでもあり有意義な活動であった。他のグループはそれぞれにグループ協議を行ったが、体験値が同等であることから学びや課題などを共感し合い、意欲的な話し合いが出来ていた。今年度は、学生の実態に合わせて内容を変更したが、学生の充実度も大きく目標も十分に達成できた。

(4) 応用期セミナー（3年生対象）

日 時	平成21年12月4日 12:45~16:30 大学会館3F 大集会室及び2階全室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Semester における体験活動の実際をふまえ、一人ひとりがこれまでの体験時間を確認し基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする。 ・実習 Semester 及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望すると共に、進路決定に向けての自己啓発を促す。

昨年度は、実習 Semester と学校教育実習Ⅳの往還をテーマとして、学生の多種多様な体験発表と、発表学生に教員を加えてのパネルディスカッションを実施し、実習 Semester と教育実習を行うことの相乗効果や、実習 Semester の進路決定への影響などについての思いを共有し合った。



今年度の実習 Semester 体験で活動した学生は178名中92名と約半数であった。教職志向で大別すると①教職志向を高めている学生（87名）②教職志向はあるが迷っている学生（57名）③教職を志望せず就職活動に取り組もうとする学生（21名）となる。このような学生の実態より、昨年と同様のプログラムでは本セミナーの目的が達成されないと考えた。学校種別の体験発表を聞くことも大変意義深いだが、学生一人ひとりのこれからを見つめていくきっかけとするために志望別グループ編成を行い、グループ協議をメインにしたプログラムを組むことにした。グループ編成は、Semester 体験の参加状況と教職志向の観点より6グループに分けた。協議では、同じ志向を持つ学生同士でグルーピングされているために話し合いが焦点化され、それぞれの過ごし方の価値を共有し合い、活発な話し合いができていた。また、自分自身の進路を表明する中で、「なぜその職に就きたいのか」「自分はどうありたいのか」「何が 필요한のか」など、自らの考えを明確にできる場になったようである。教育実習Ⅳ・Ⅴを終えたこの時期に、その総括と今後の進路を結び付けて考える良いきっかけとなったと思う。

(5) 発展期セミナー（4年生対象）

日 時	平成21年12月2日 15:00～17:00 教育学部 35番教室
ねらい	・1000時間体験学修における基礎体験領域での学びを総括し、一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と影響度を明らかにする。

4年間の総括としてこれまでに行った様々な体験活動を振り返り、活動を通してどんな力を付けたのか、何を学んだのかなど自己の成長を再確認した。また、4年間の取り組みが自分自身の生き方や進路決定に大きく影響していることに気付く契機にもなり、基礎体験活動の有意義感をさらに高めたようである。また今年度は、臨床カウンセリング領域からの総括的な説明とアンケートを行い、4年間の基礎セミナーの締めくくりを行った。

3. ビビットひろば

(1) 活動のねらい

ビビットひろばの活動は、今年で5年目を迎えた。松江市内の小学生に活動の趣旨や楽しさが浸透してきており、今年度は678人の児童から参加申し込みがあった。予定していた5回を無事実施することは出来たが、今年度は全国的な新型インフルエンザの流行に伴い多くの児童の欠席があった。企画運営に携わった学生達はとても残念な思いであったが、欠席した児童の分も参加してくれた児童達に楽しんでもらおうと活動運営に励み、企画力、指導力、コミュニケーション力などの多くの力を身に付けた。



(2) 実施時期と活動内容

前 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成21年6月27日（土）9:30～12:00 申込み者192名 参加者162名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ・ものづくり教育センター 人間生活環境】
出前 ビビット	平成21年8月1日（土）、2日（日）9:30～16:00 ○出雲科学館の「科学の祭典」に出展
第2回	平成21年7月18日（土）9:30～12:00 申込み者126名 参加者106名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・ものづくり教育センター】
後 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成21年10月31日（土）9:30～12:00 申込み者140名 参加者79名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・英語・国語・家政】
第2回	平成21年11月21日（土）9:30～12:00 申込み者90名 参加者54名 開催講座【教育支援センター・英語・国語・健康スポーツ】
第3回	平成21年12月19日（土）9:30～12:00 申込み者131名 参加者83名 開催講座【教育支援センター・英語・国語・健康スポーツ・環境寺子屋 ものづくり教育センター】

4. 各事業所との連携

基礎体験学修を推進していく上で、年間450件を超える活動を提供して下さる事業所との連携を密にしていくことは、体験の量的充実だけではなく質の向上においても必要不可欠である。今年度も、基礎体験合同説明会と基礎体験学修連絡協議会を実施し、基礎体験学修の趣旨や期待する学び、募集手続き等についての共通理解を行った。また、意見交換を通して学生にとってよりよい基礎体験学修の環境を作るとともに、受入事業所にとっても大学と連携することでメリットがあるような活動のあり方について話し合った。

(1) 第1回 基礎体験合同説明会及び基礎体験学修連絡協議会

＜平成21年4月22日（水）＞

合同説明会 (14:30~15:30)	場 所：大学会館3F大集会室 参加者：1年生171名, 27事業所43名
連絡協議会 (15:45~17:00)	場 所：ホール及び2階第3集会室 参加者：30事業所47名, 支援センター7名

入門期セミナーを3日前に終え、基礎体験学修への意欲が高まったところで基礎体験合同説明会を実施した。多くの受け入れ事業所が参加してくださり、今年度予定されている活動内容等について、ポスターセッション方式で説明していただいた。

基礎体験学修連絡協議会では、昨年度のアンケート結果をふまえ、1000時間体験学修のねらいである、豊かな人間性と実践的な指導力育成に向けての取り組み方針や、基礎体験活動の流れについて説明し、双方にとって有意義な体験活動にするための共通理解を図った。



(2) 第2回 基礎体験学修連絡協議会

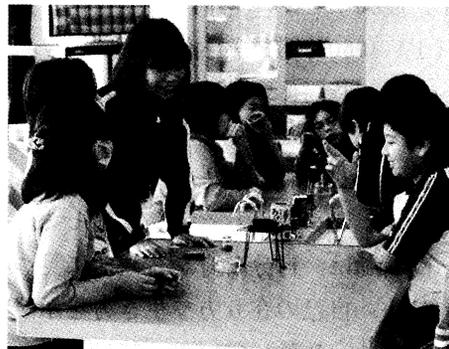
＜平成21年2月16日（火）＞

連絡協議会 (15:00~17:00)	場 所：25番教室 参加者：21事業所27名, 支援センター7名
------------------------	-------------------------------------

第2回基礎体験学修連絡協議会では、今年度の活動報告と学生の取り組み状況についての説明を行った。その後のグループ別協議会は、主催団体別に3グループに分けて実施した。各事業所からは、概ね学生は意欲的に取り組んでおり、事業所の活動運営に貢献していると評価していただいた。また、学生の効果的な活用や学生の確保など、今後の取り組みに対する重要な提案も多く出された。

5. 実習セメスター

教育支援センターでは、体験の構造化をかけた、学年に応じた活動の在り方を示している。そして、1・2年生にはコミュニケーション力等を高める意味で地域や子どもを対象にした活動、3年生には教職に就くことを前提にして学校現場での学習支援活動、4年生にはキャリア教育、卒業後の生活を見据えた活動に参加するよう呼びかけてきた。その成果か、3年次の実習セメスターでの学校体験活動参加者は年々増加しているし、実習セメスター終了後も学習支援を継続している学生も少なくない。実習セメスター体験は、学生にとっても学校にとっても有意義な体験活動であると、受け入れ先の学校園から認めていただき、学校からの期待も大きい。



《実習セメスター実績》

	18年度		19年度		20年度		21年度	
	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県
募集学校数	—	—	39	14	63	13	45	22
募集活動数	20	14	77	14	84	13	63	23
参加活動数	29	13	37	8	50	12	42	18
参加人数	126	30	107	19	141	21	127	43
全体	156		127 (1)		162		170	

() 内は、山陰両県以外での参加人数

6. 学内資格認定制度

教育支援センターでは、「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサービス・サポーター」の3つの学内資格を設定しているが、今年度の認定者は延べ12名であった。内訳は、表1の通りである。

資格認定者は、基礎セミナーにおいて全体でメッセージを伝えたり、個別にアドバイスをしたりする支援を行ってきた。体験活動での学びや課題、自己の生き方への関与などを述べたが、下回生にとって先輩たちの生の声はとてつもなく説得力があり、自分自身の数年後と重ね合わせながら熱心に聴いていた。体験発表をする学内資格認定者の姿を見ながら、自分もあんな先輩になりたいと思った学生も多く、学内資格の価値が学生相互においても認められるよい機会になった。

学内資格認定者（表1）

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポーター	8名	3年生5名 4年生3名
学校教育サポーター	3名	4年生3名
コミュニティサービス・サポーター	1名	4年生1名

Ⅲ 平成21年度の成果と課題

1. 成果

(1) 1000時間体験学修の達成

1000時間体験学修を実施し3期目の卒業生を送りだした。今年度も、卒業要件を満たす単位を取得した学生は全員が1,000時間の体験学修を達成（平均：1,304時間、最低：1,001時間、最大：2,898時間）し、「1000時間体験学修認定証」を授与した。

4年間を締めくくる発展期セミナーのアンケートを集約してみると、学生にとって基礎体験活動は、自分自身を客観的に見つめ直す契機となる存在であり、進路選択に大きな影響を与え、自己の在り方や生き方を示唆するものとなっている。また、体験時間数と進路の調査により、教職に就いた（特に正規採用者）卒業生は、教職以外の職に就いた卒業生よりも体験時間が多いことも明らかになっている。体験活動への意欲的な取り組みが教職志向の向上へつながり、教員採用試験へ向かう学生の意欲継続の支えとなったと推察される。

(2) 基礎体験セミナーの充実

今年度は、各学年の活動意欲や体験時間、教職志向などの実態把握に努め、より学生のニーズに応じたセミナーとなるように努めた。入門期セミナーの学生参画、充実期セミナーの体験時間別グループ協議、応用期セミナーの教職志向別グループ協議などが挙げられるが、どれも学生の活動状況や志向性に添った内容であり、意欲的かつ深まりのある活動となった。特に応用期セミナーは、教職志向にセメスター体験の過ごし方も加味したグループ編成にしたため、卒業後の進路を見据えたセメスターの過ごし方に興味津々であり、とても活発な意見交換がなされていた。体験状況や志向性など学生により様々であるが、すべての学生にとって個々を見つめ直す充実したセミナーであったと感じた。

(3) 教育実習と学外教育体験学修の往還による教職志向の高まり

附属学校園で教科指導を中心に行う教育実習と、公立学校において学校生活全般にわたる支援活動を行う学外教育体験学修を組み合わせることにより、補完的・往還的なメリットが生まれている。今年度は、実習セメスターの学外教育体験への参加条件に「週2日以上参加」を加えたため、必然的に児童生徒や先生方との関わりが増し、子ども理解や学校理解等をより一層深めた。1月以降も継続して取り組む学生も増えてきており、学校支援活動の価値を見出してきている。また、教員採用試験を終えた4年生の学外教育体験活動参加も増えてきており、4月に教壇に立つための準備期間と捉えて目的意識を持って取り組んでいる。このような経験を積み上げてきている4年生は多くの学校より高い評価をいただいたており、1000時間体験学修の成果の現れの一つである。

2. 課題

(1) 基礎体験活動への意欲向上

今年も、体験時間が満たされず卒業できなかった学生はおらず、1,000時間の量的ハードルが十分達成可能な量であることは確認できた。しかし、実際には卒業の数か月前から慌てて

取り組んでいる学生も数名おり、彼らにとっては、体験活動の目標は時間の確保であり、質の高い学びは二の次である。活動後の振り返りでは、活動の楽しさや得られる学びの多さを知り、今まで何かと理由づけして避けてきていたことを後悔する学生がほとんどであった。また、今年度の1年生は全体的に体験活動に消極的であり、未だ体験活動に参加していない学生が20名近くいる。過去3年間、全員が卒業していることから、部活動に熱心な学生中心に“何とかなる”的な考えを先輩達から受け継ぎ、安易な考えが浸透してきている現状もある。このような実態を踏まえ、早期に体験活動に参加させ、まずは活動の楽しさや価値を見出させることが必要である。そして、計画的に4年間の体験活動に取り組ませ、個々の課題に添った学びの習得に目を向けさせることである。各学年での基礎セミナーの見直しは今年度も行ってきたところだが、これらの課題に向けて今後も時期や内容、新規セミナーの開催等も含めて検討していきたい。また、活動の募集掲示やアナウンスの工夫など、活動参加しやすい環境づくりも課題である。

(2) 学内資格認定制度の活用

資格認定された学生は、豊富な体験と実践的な指導力の持ち主である。現在の資格認定者は延べ12名であるが、要件を満たしている学生はまだ多数いると認識している。資格認定者を活用した有意な活動をより活性化していくためにも、今以上に資格認定者を輩出していく必要があるが、資格認定を受けることもメリットが学生に認識されておらず、取得意欲につながっていない現状がある。今後は、資格認定者にとって有意義な活動の補償を行い、資格の価値が学生相互において認知されるものにしていくための工夫改善が必要である。

(3) 専攻別体験との連携

専攻別体験は、各専攻の特色に根ざした活動であり、各専攻の専門性を深化させるための教育体験活動として基礎体験活動の中に位置づけられている。ビビットひろばでの専門性を生かした体験活動や各講座で提供される専攻別体験、環境寺子屋等によって、教科等の専門性を体験学修の中に連動させている。今年度も学生フォーラムにおいて、学内資格認定者の実践として専攻別体験の取り組みの発表を行った。多くの専門性を生かした活動が紹介されたが、講座による地域や学校との関わりの深さに差を感じた。今後は各講座との連携を今以上に密にして、専門性が生かせる教師の育成を目指し活動を充実させていく必要がある。

(資料)

平成 21 年度 基礎体験領域における年間活動実施一覧表

附属教育支援センター

活動名		対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学 内	基礎体験セミナー	1年	入門期 セミナーⅠ 基礎体験 合同説明会	入門期 セミナーⅡ									1,2年生交流 セミナー		
		2年							充実期 セミナー				1,2年生交流 セミナー		
		3年										応用期 セミナー			
		4年										発展期 セミナー			
	だんだん塾講演会 (サポートマイスター講演会)	共通				小岩崎里瑠 先生講演					河野美知 先生講演		高尾雅裕 先生講演	甲本卓司・ 中村由利江 先生講演	
	だんだん塾	共通	← 専任教員による学生支援活動 (①基礎体験学修の事前事後指導 ②日常的な相談活動 ③教採にむけての面接指導等) →												
	島大ビビット広場	共通			第1回	第2回	出前ビビット		第3回	第4回	第5回				
専攻別体験学修	専攻 学生	← 教育学部の各講座の専門性を生かした、講座主催による年間を通じた体験プログラムの実施 →													
学 外	NPO法人ほか民間団体	共通	キャンプ、ジュニアリーダー養成研修、レクリエーション指導者養成、週末子ども体験事業 他												
	民間 国 県		共同調査研究事業、研修事業及び施設ボランティア 適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、定時制高校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他												
	島根県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他												
	島根県松江市		サタデースクール、子どもの居場所づくり事業 他												
	出雲市		← 実習 Semester 教育体験活動 → 小中学校学習支援、サタデースクール												
	安来市		← 実習 Semester 教育体験活動 → ウィーエンドスクール												
	江津市		← 実習 Semester 教育体験活動 → 通学合宿												
	雲南市		← 実習 Semester 教育体験活動 → 教育研究会参加												
	東出雲町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	奥出雲町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	飯南町	共通	← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	斐川町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	川本町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	美郷町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	海上町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	島根県米子市		← 実習 Semester 教育体験活動 → 小中学校学習支援												
	境港市		← 実習 Semester 教育体験活動 → 小中学校学習支援												
	伯耆町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	南部町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	日吉津村		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	大山町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	他		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	島根県浜田市		← 実習 Semester 教育体験活動 →												
	隠岐の島町		← 実習 Semester 教育体験活動 →												

池山 圭吾 長澤 郁夫 福岡 敏之 青山 巧 小川 巖